

歯学部

大学生活を有意義に

歯学部附属病院長

新谷 英章

一九九七年、歯学部に入學した諸君に、心からお祝いの言葉を贈りたい。諸君は、必ず将来歯学の分野で活躍をしようと考へ、歯学部を選んだことと思う。諸君はこれまでの受験競争から解き放され、真に自らを問うことができるのが、これから始まる大学生活である。

最初の一年間は、統合移転の完了した東広島キャンパスで教養的教育を履修することになる。これは自分の好みや専攻する分野に限定されない広い視野をもち、その基盤の上に将来の医療人としての自分独自のものを高く掲げるためには必要なことである。広く、基礎的自然科学ならびに人文社会学の学問分野をしっかりと勉強してもらいたい。今年度から教養ゼミが始まるので、諸君は四月から震キャンパスの歯学部に向き、基礎、臨床の各三講座の担当教官と積極的に研究、学習活動に参加し、知的興味を育む機会と、学生と教官とのコミュニケーションを促進する場を提供されることになる。大学での学習の入り口としての教育効果が期待されている。

歯科医療は高齢化社会を迎える二十



一世紀では、口腔領域における疾病内容も多様性を帯び、歯学教育に対しても質的改善が強く求められている。医療技術だけでなく、高い教養と人間性の優れた歯科医師が求められることになり、さらに生涯にわたる研修も必須となってくる。

これから六年間の大学生活での一日は、諸君にとってかけがえのない青春であり、この時期、勉強はもちろん、スポーツ、趣味を満喫することは、いかどどこかで役に立つことであろう。また、その中で生涯を通じての友人を見つけ出すことも大変重要であると思う。

二度とない学生時代が夢多き日々であることを祈り、諸君の健康を期待してやまない。(しんたに・ひであき)



学生実習風景

新入学おめでとうございます

歯学部学生 駒林 卓

センター試験、二次試験を見事に突破され、今春より私たちといっしょに学ぶことができることをとてもうれしく思う。地元広島のみならず、全国各地からやってきた人も多いと思う。



入学に際し、私たちはみなさんに「感謝」という言葉を贈りたいと思う。なぜなら、私自身が日々先生方、友人、家族に対して「感謝」を絶やしてはならないと考えるからである。

先生方への感謝というのは、自分自身が大学で有意義な日々を快く過ごす面からも、欠かすことができない。先生方への感謝が薄らぐと日々の講義・実習が空虚に感じられ、留年したり、退学したりしている人が多いようである。

友人、知人は、学生生活をエンジョイする上で大切である。初めのうちは、コンパを紹介し合ったり、旅行に行ったりということが中心になると思うが、学年が進むにつれてテスト勉強や実習のパートナーとして付き合いが深まるものである。

最後に、家族への感謝である。たとえば、バイトと奨学金で自活できても、家族の協力なしには、大学生活は成立しないだろう。特に一人暮らしを始めた人は、日々の生活で親の有難さや苦勞が、より理解できるであろう。

みなさんが、健康で充実した楽しい大学生活を送れることを祈りつつ、お祝いのご挨拶とさせていただきます。

(こまばやし・すぐる)